

【名取市】 校務DX計画

令和2年度に1人1台端末導入後は、デジタル教材等を活用し、学習におけるデジタル化を進め、クラウドサービス等を活用し、欠席連絡の対応にかかる負担軽減も図っています。また、名取市は、令和6年度から市内小・中・義務教育学校15校で校務支援システムも導入しました。

デジタル化・オンライン化を進めていますが、学校現場においては、依然として紙ベースの資料が多く見られるのも事実です。そのため、校務の円滑化・効率化の観点から、各種デジタル化及びペーパーレス化を積極的に進めていく必要があります。

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえながら、具体的な取組を次の通り、行います。

1 クラウドサービスの活用

名取市では、学校と保護者間の連絡、教員と児童生徒間の連絡、学校内の連絡に、保護者連絡アプリやGoogle Workspace for Educationを用いています。児童生徒の欠席等の連絡、児童生徒への課題の配信、職員間の情報共有等において、保護者連絡アプリやクラウドサービスを用いたことで、業務の効率化、時間の有効活用、ペーパーレス化につながっています。今後も、学校の現状と課題を把握するとともに、引き続き好事例や先進的事例に関する情報を提供し、校務DXが推進されるよう継続して支援していきます。

2 FAXでのやりとり・押印の見直し

「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく点検結果では、保護者・外部とのやりとりにおける押印や関係団体・事業者との間におけるFAXでのやりとりが、校務DXを阻害していると指摘しています。名取市においても、このようなやりとりが見受けられます。FAXのほうが電子メール等より効率的な場合や押印がどうしても必要な場合等を除き、FAX及び押印の廃止に向けて、名取市においても制度・慣行を見直すとともに、FAXでの送付や押印を求める関係団体・事業者に対しても、制度・慣行の見直しを図るよう働きかけを行っていきます。

3 今後の校務支援システムの在り方について

教職員の働きやすさの向上と教育活動の高度化を目指し、ゼロトラストセキュリティの考え方に基づき、アクセス制御によるセキュリティ対策を講じたうえで、校務系・学習系ネットワークの統合について調査研究を進めます。

また、本市では令和6年度から市内15校で、クラウドにおける統合型校務支援システムを導入しており、教務系（成績処理、出欠管理等）、保健系（健康診断票等）、学籍系（指導要録等）等幅広い業務で利用しています。国の次世代の校務デジタル化実証事業の成果等を参考にしながら、クラウド環境における校務処理の在り方について、更に検討を進めていきます。